



©撮影：伊藤華織

春日井市図書館には紙芝居があります！



「ねこはしる」  
工藤直子作  
童話屋 1989年



「ねこはしる」の原作を読んでみよう！  
詩人／童話作家  
工藤直子の世界



絵本＆  
児童書に関わって40年！

この方にお話を伺いました！



BookGalleryトムの庭 店主・月岡弘美さん



BookGallery トムの庭  
地下鉄東山線「東山公園」駅  
1番出入口西隣 徒歩0分  
◆Tel/052-734-8268  
◆11:00~19:00  
◆定休日/第2水曜日・木曜日

日本で一番、  
子どもたちに愛される詩人  
工藤直子さんは、どんな作家ですか？  
——これほど子どもたちに愛されている日本の詩人はいないと思います。ただ単に教科書に載っているというだけではなく、「のはらうた」などの詩集は、学校でも子どもたちに人気で、読みつがれている。これはすごいことです。昆虫や動物などの表現が素晴らしいからでしょうね。それから、工藤さんの身体からそのまま出てきたような、素直な言葉も大きな魅力です。子どもたちが初めて「詩」というものを受け止めた、原体験のような存在が工藤さんなのではないかと思います。

子どもの話し相手は  
人間だけじゃない  
「ねこはしる」の魅力はどんなところだと思いますか？  
——虫とか、動物、雲など、色々な自然の視点で物語が語られますよね。これはまさに、子どもの感覚です。子どもが遊んでいる様子を見てると分かるんですが、彼・彼女らの話し相手は、人間だけじゃないんです。通りかかった猫や犬に「ごちへおいでよ」と言ったり、砂場の砂にまで、まるで人間に話してみたいにブツツ話しかけている（笑）。この、垣根なくみんなが繋がっている感覚を、工藤さんは、大人になっても自然に持ち続けているんじゃないかな。だからこそ、猫が持つ動物の性を描いても、主人公である猫のランの気持ちの変遷に、すーっと共感できるんだと思います。

大人と子どもの垣根を  
超えて、一緒に楽しむこと  
「ねこはしる」は、子どもだけではなく、大人にも向けた、親子向けの舞台です。親子で絵本を読んだり、舞台を観ることは、どういう意味があると思いますか？  
——よく「子ども向けだけど大人も楽しめる」と言うのでしょうか？僕は反対に、大人が楽しめるものを子どもが



スタッフ＝伊藤寛隆

舞台のために作曲されたオリジナル曲は、お芝居を観終わってからもしばらく耳に残ります。ここでしか聴けない音楽も、ぜひ劇場で体験してください！

親子わくわくプログラム  
ねこはしる  
8/18日 14:00-@春日井市東部市民センター  
※一部団体法人地域創造  
文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
協賛：サンマルシェ

詳細情報は、裏表紙で Ticket Guide



©撮影：伊藤華織

# ねこはしる

子どもと、大人の中の子どもに贈る

今年の夏休みは



この舞台で決まり！

工藤直子原作 劇団KAKUTAによる音楽劇！



あらすじ

のろまでドジだけど気持ちの優しい子猫のラン。池の魚と仲よしになって、いつしか二人は心を通わせ、ともに成長します。ところがある日、魚は他の兄弟猫たちに見つかり、魚とり競争がおこなわれることに。ランが悩んだ末、こころに誓った哀しくもたくましい決意とは？

猫と魚の友情を描いた、工藤直子の童話「ねこはしる」。生き生きと描かれる自然と、予想できないラストが深い余韻を残す名作です。  
この童話を、普遍的な視点と心をえぐる物語性で、老若男女問わず高い支持を得る劇団「KAKUTA」が、とびだす童話として舞台化しました。猫や魚、ちようちよにひまわり、雲や大地まで。本の中からそのまま飛び出してきたように個性豊かな、いのちたちが、舞台の上を駆け回ります。  
研ぎ澄まされた原作の台詞はそのままに、扇谷研人作曲のオリジナル曲によって、キャラクターの個性が際立つ音楽劇になった「ねこはしる」。観終わった後、親子で話したくなるような、切なくも温かい物語をぜひお楽しみください。